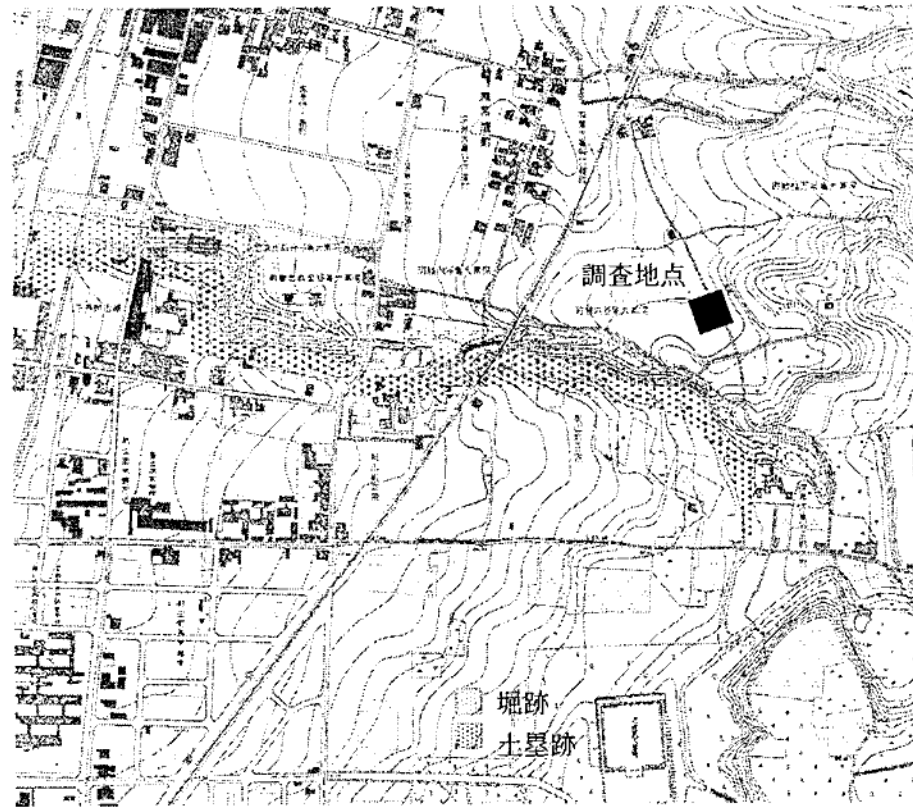


伏見城城下町跡

発掘調査現地説明会資料



伏見城惣構の遺構(昭和11年の地図)

2002年7月28日

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

調査場所 京都市伏見区深草大亀谷六昧町・万帖敷町

調査期間 2002年5月8日から継続中

調査面積 1600㎡

調査経過 今回の発掘調査は、区画整理事業に伴って行われているものです。調査地は、伏見城の城下町の北端に近いところにあります。調査区の中央には、北西方向から南東方向に通る幅2m程の小道があります。江戸時代に描かれた絵図などによると、この道に沿って町屋が描かれています。調査では、そのような町屋が本当に存在したのか、いつからいつまで存在したのか、などを明らかにすることを主な目的として行ってきました。

主な遺構 発見した遺構(地面に残された生活の痕跡のこと)には、道路や建物跡があります。建物を建てる前には、大規模な埋め立て工事を行って平坦な土地を作っていることも明らかになりました。これらは安土・桃山時代から江戸時代前半の遺構です。

【道路】 現在まで使われていた小道と同じ場所に同じ幅(約2m)で確認されました。路面には、ぬかるまない為の小石がまばらですが敷かれています。道路の側溝は、道の西側にだけ部分的ですが、確認しています。

【建物】 調査区の南端、道路の西側で礎石建ちの建物を確認することができました。建物の規模は小さく、間口が2.5間(5m)、奥行きは3.5間(7m)程の小さなものです。建物の中には道路から裏に通り抜けることができる幅1mの土間(通り庭)があります。建物として復元できるのはこの1棟だけですが、建物に伴うと考えられる礎石は、調査区全体に道路から10mまでの間で確認しており、当時は道の両側に町屋が建ち並んでいたと考えられます。

【水溜】 道路からみて建物の裏側には、石組みや瓦積みの小さな水溜があります。大きさは、直径1m、深さ0.4m程度です。底に粘土が貼ってあるものもあることから、井戸ではなく、水溜と考えています。飲料水以外の生活用水をここに溜めていたのでしょうか。

【カマド】 道路の東側では、複数の地点で竈を確認しています。竈は道路から6m～8m離れた場所に位置しています。残念ながら、この竈に伴う建物を復原するには至っていません。

主な遺物 遺物にはつぎのようなものがあります。多くは安土・桃山時代の遺物です。

【土器類】 青花(明代の染付)、美濃・瀬戸焼、唐津焼、備前焼、信楽焼、丹波焼、土師器

【瓦類】 金箔軒丸瓦、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦

【銭貨】 宋銭

【石製品】 硯、砥石

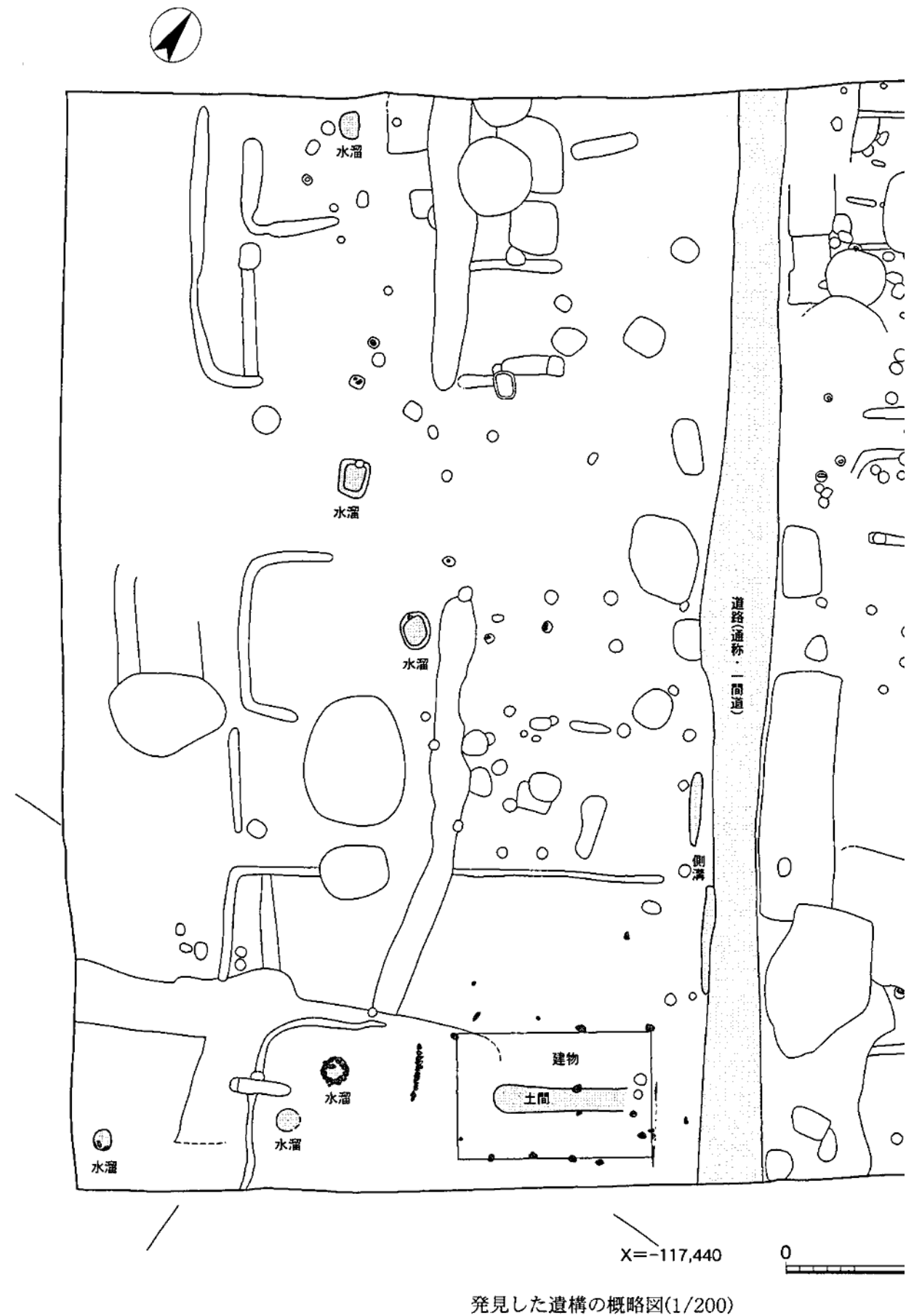
まとめ 調査の結果、この場所に町屋が建てられ始めたのは、安土桃山時代から江戸時代の初めであることが明らかになりました。建物の規模は、間口2～3間と小さなものであったと考

えられます。宅地の奥行きは、現在まで残っている地割りなどから、道路から30m(15間)であったと推定できます。これは、伏見城の城下町の中心部(京町通や両替町通など)と同じ奥行きを持っています。このことは、城下町全体の設計方法と同じもので400年前のこの地の宅地造成が行われたことを示しています。調査地は、伏見城城下町の中心部を守るため、堀と土塁で作られた惣構そうがまのすぐ北側になりますが、伏見城の城下町は惣構の内側で途切れるのではなく、更にその外側にまで広がっていることが明らかとなりました。

出土した陶磁器類のうち、最も新しいのは江戸時代の後半(18世紀末ごろ)のものです。この時期には、町屋は廃絶し現在まで続く耕作地に変化していったと考えられます。

伏見城関係略年表

年号	西暦	記事
天正10年6月2日	1582	本能寺の変
天正11年8月	1583	羽柴秀吉、大坂城造営開始
天正14年2月21日	1586	豊臣秀吉、聚楽第造営開始
天正19年	1591	秀吉、御土居を築く
天正20年8月20日	1592	秀吉、伏見指月に新城の造営を始める
文禄2年閏9月20日	1593	秀吉、伏見城に移り、諸将近辺に築館を設け始める
文禄3年	1594	伏見城下町造成のため社寺村落の移転
文禄4年7月8日	1595	秀次官職を奪われ高野山へ、秀次自害
文禄4年7月28日	1595	聚楽第破却、伏見城に移築
文禄5年閏7月13日	1596	大地震のため伏見城倒壊
文禄5年閏7月14日	1596	秀吉、伏見木幡山で伏見城再建にかかる
文禄5年10月10日	1596	新伏見城(木幡山)の本丸完成
慶長2年5月4日	1597	伏見城の天守閣完成、秀吉と秀頼大坂城から移る
慶長3年8月18日	1598	秀吉、伏見城で死去
慶長5年8月1日	1600	伏見城陥落、鳥居元忠自害
慶長5年9月15日	1600	関ヶ原の戦い、東軍が西軍を破る
慶長7年6月1日	1602	伏見城の普請始まる
慶長8年2月12日	1603	徳川家康、伏見城で征夷大將軍の宣旨
元和9年	1620	伏見城の破却決定
大正元年8月6日	1912	明治天皇・桃山山陵が伏見城の旧地に決定
昭和39年3月20日	1964	伏見桃山城天守を鉄筋コンクリートで遊園地内に復原





伏見城跡と調査位置図（山田邦和氏作図を参照に作成）



1 調査区の全景(北西から)



2 調査区南部で発見した建物(南西から)